再々彩々　森久商店第三倉庫コンバージョン計画

北山林業を支えた木造倉庫群

北区中川北山町。衰退する林業。失われる産業景観。工程に応じて発展した建築的意匠は独自の景観を形成した。北山の景観と文脈とともに丸太の使われ方を再解釈することは、北山丸太と林業の魅力を同時に再発信していくことができるのではないか。

倉庫を囲む丸太群

作業の場に適応した軒

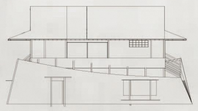
立て掛ける吹き抜け空間

北山丸太の乾燥や在庫保管などの機能に応じて発展した建築的意匠をもつ複層の巨大な倉庫が屋敷外に建設されていった。現在、清滝川沿いの木造倉庫群はその機能を失ったものの、中川北山地区の文化的景観を形成している。

倉庫から住宅へのコンバージョン

回廊と入母屋：既存木造倉庫

入母屋と RC 壁：新規住宅

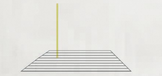


産業における特徴を住宅に落とし込んだ複数レイヤーによる丸太の彩り

立て掛け

エンデとツマド

アクセント

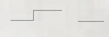


RC 土間空間

丸太の使用

斜めに立て掛けた風景は新しい表層・構造として継承される。アクセントとしての文脈の丸太をレイヤーとして更新する。

スキップフロア
吹き抜け



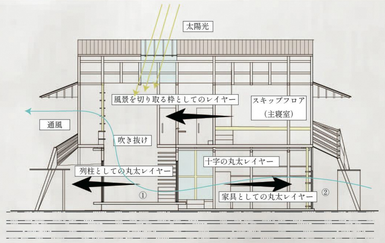
回廊

深い軒

住宅機能

レイヤー作用

機能から発展した特徴的な空間構成は住宅機能に置き換えることができ、パラレルに使い方を更新していく。



手法例：レイヤー作用

①

②

深い軒と RC 壁の間に半外部の土間空間が現れる。内部から見える風景を並べられた北山丸太が彩る。

構造ダイアグラム

屋根

日照時間が少ない地区
屋根切り取り日光を取り込む

北山丸太

空間のアクセントとして丸太を利用する

既存柱

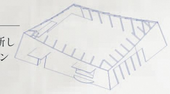
既存の柱・梁をそのまま使用する

既存壁 / 新規開口

住宅に変換するための最小限の壁と・構造壁を入れる

SRC 構造補強

4 周を巻く SRC の新しいレイヤーをデザイン



空間を「彩る」丸太の様々な使い方

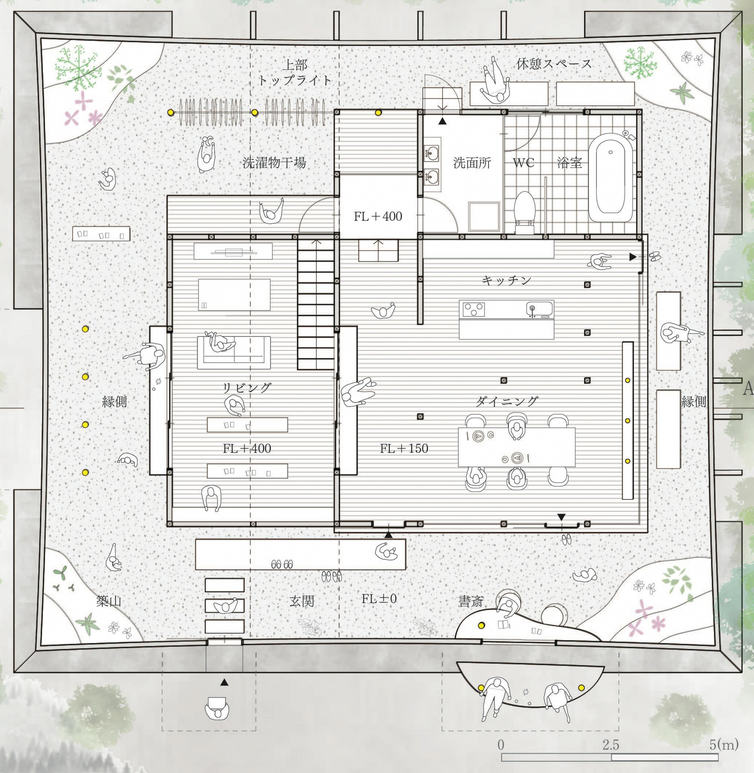
レイヤーを生み出す列柱北山丸太

倉庫の高さを生かした吹き抜けと丸太の手すり

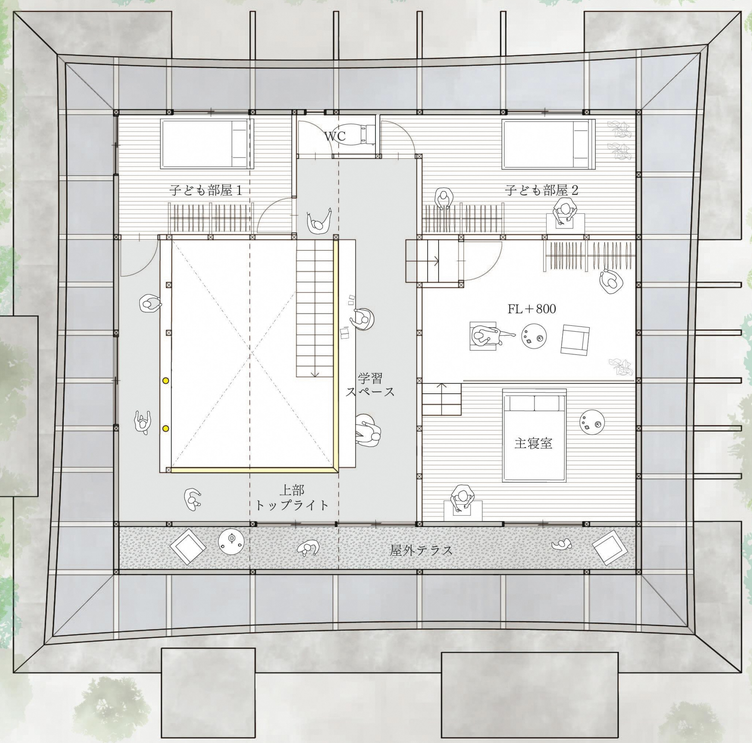
街と住居の中間領域を生み出す丸太

玄関から視線が通り抜ける通路

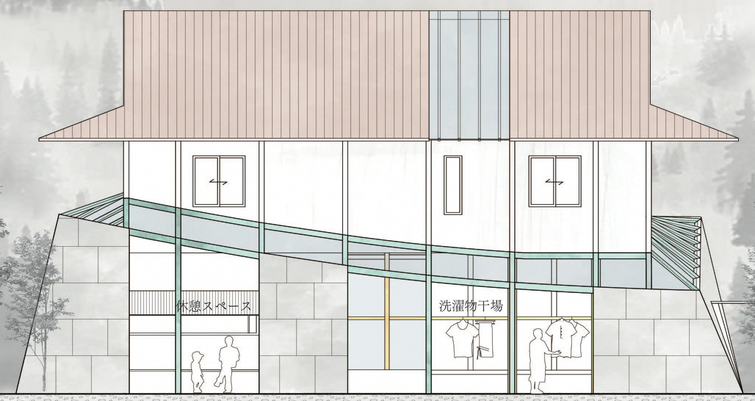
1 階平面図　S=1:100



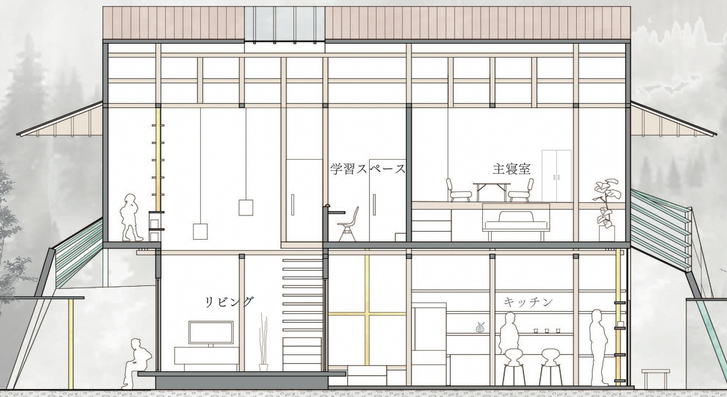
2 階平面図　S=1:100



北側立面図　S＝1:100



東側立面図　S＝1:100



A-A' 断面図　S＝1:100

敷地面積　441 ㎡　延床面積　349.4 ㎡　建築面積　255.86 ㎡